

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は通常学級が5学級、特別支援学級が6学級(生徒総数157名)という小規模校である。校区に大阪ミナミの繁華街があり、外国籍の生徒や保護者の母語が日本語ではない生徒は全体の4割を超え、さらに特別支援学級の生徒が急増している。全体の6割近くの生徒が、日本語指導、特別支援など個別の支援を要するという他校にはない特別な実情がある。支援を要する生徒の課題は様々で、個に応じた指導の充実を図っていかなければならない。さらに日本語の支援が必要な保護者も多い。学校全体の状況は、本校ならではの様々な取組みの成果もあり、生活指導面では落ち着いている。しかし家庭においては、食事もとれていない、長時間一人で過ごすなどとても生徒の健全育成が見込めない状況があり、虐待や家出などで緊急保護されるケースが増えている。また家庭の教育力が弱いため、学校教育において培っていかなければならないことも多い。ヤングケアラー問題にもさらなる対応が求められている。本校の学力面の一番の課題は、家庭での学習習慣の確立である。さらに個別に授業の内容がわかるようにサポートし、放課後も学習できる体制を整えていく必要がある。現在、一定の日本語力が習得できた生徒に対しては、学習言語の習得をめざしてJSLなどを積極的に活用している。また本校はグラウンドが狭く、地域内に公園等も少なく、運動スペースが不足している。運動能力において、課題が見られる生徒が多い。体育の授業中の基礎体力を向上させるトレーニングを継続し、体力の向上をはかっている。生活面、学力・体力面ともに、自己に対する自信が持てていない生徒に対して、学校生活において、それぞれの目標に向かって取り組み、達成感を持たせることで自信をつけていかなければならない。

このような学校課題を解消するためには、教職員が生徒に向き合う時間をさらに増やしていかなければならない。生活面においては、関係諸機関とも積極的に連携し、不登校・問題行動等の未然防止に力を入れている。またこどもサポートネット事業のスクリーニング会議において、支援が必要な保護者・生徒に対する具体的な方策を検討し、関係部署が連携して、丁寧な寄り添う対応を展開している。学習面においては、タブレット端末等のICT機器やサポーターなどを有効に活用し、個別指導をさらに充実させていく必要がある。「個別最適な授業づくり」をめざして、校内外での研修を通じて、教員の授業力の向上を進める。「チーム学校」の意識をさらに高め、学校課題に対して組織的に対応する体制強化を進める。

さらに本校は校区が広く連合振興町会が8つ存在し、地域の地域関係者は本校に対し強い愛着の思いを持っており、非常に大切にいただいている。しかしながら近年、生徒数の確保が問題になっている。。校区小学校の生徒数も減少傾向にあり、学校選択制によりさらに生徒数が減っている現状もある。地域の方や小学生の児童・保護者に本校の取り組みとその良さを積極的にアピールし、学校選択制において、「選ばれる学校」にしていかなければならない。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○校内アンケート調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の今後4年間の平均値を98%に保つ。

○校内アンケート調査における「あいさつ、服装、頭髪などきちんとできている」に対して、肯定的に回答する生徒の今後4年間の平均値を95%に保つ。

○校内アンケート調査における「学校生活は楽しい」の項目に、肯定的に回答する生徒の今後4年間の平均値を90%に保つ。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○校内アンケート調査における「授業に集中して、まじめに学習に取り組んだ」に対して、肯定的に回答する生徒の今後4年間の平均値を85%に保つ。

○校内アンケート調査で「授業が分かりやすい」の項目に肯定的に回答する生徒の今後4年間の平均値を90%に保つ。

○校内アンケート調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の今後4年間の平均値を80%に保つ。

【学びを支える教育環境の充実】

○校内アンケート調査における「ICTを活用した授業展開ができる」に対して、肯定的に回答する教員の今後4年間の平均値を80%以上を保つ。

○校内アンケート調査における「ゆとりをもって業務に取り組むことができる」に対して、肯定的に回答する教員の今後4年間の平均値を80%以上を保つ。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ・中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を50%以上にする。
- ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・デジタル教材を活用した授業を週3回以上実施する。
- ・学習者用端末を毎日活用する。
- ・ゆとりの日の設定を月に1回設ける。
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（中学校）

達成状況

- ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校の年度目標

○「人権・平和」の取り組みや学校行事などを通じて、相手を思いやる気持ちの育成を図るとともに、情操が豊かで「いじめ」の起こらない、生徒が「安心して登校できる」学校づくりを目指す。
○様々な体験活動を取り入れることで学校生活を充実させ、生徒アンケートにおける「学校が楽しい」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を8割以上にする。
○細やかな状況観察、声掛け、教育相談、家庭訪問などで「いじめ」や「不登校」を未然に防ぐだけでなく、早期発見、改善につなげる。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

進捗状況

取組内容①【基本的な方向 1 安全安心な教育環境の充実】

「いじめについて考える日」「いじめアンケート」を実施し、いじめの未然防止、早期発見の取り組みの徹底を図る。
(1-1、いじめへの対応)

指標

年2回の教育相談週間の実施と、5月に「いじめについて考える日」を設定し、学期に1回以上「いじめアンケート」を実施する。

取組内容②【基本的な方向1 安全安心な教育環境の充実】

校内の連携を強化し、関係部署と連絡を密にとり、不登校になる生徒の未然防止と、不登校生徒の改善策を図る。

(1-2、不登校への対応)

指標

こどもサポートネットを学期に1回以上行い、不登校の未然防止や早期発見・解決に努める。

取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】

生活指導関連の外部講師の招聘や各学年での体験活動の充実を図ることに加え、1年生で大阪市内の文化施設を訪ねる「地域探訪」、また2年生で「地域探訪」「大阪城周辺フィールドワーク」と「職場体験学習」を実施し、人権感覚を養う。1・2年合同で一泊移住を実施し集団で生活をする上で、必要なルール・マナーを学ぶ。

(2-3 人権を尊重する教育の推進)

指標

校内アンケート調査において、「外部講師を招いた講義や体験活動が充実していた」と回答する生徒の割合を90%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

| |
|--|
| |
|--|

次年度への改善点

| |
|--|
| |
|--|

(様式2)

大阪市立 (学校園名) 令和 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

| | | |
|------|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 | A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| | C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

年度目標

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標 (中学校) 達成状況

- ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ・中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を50%以上にする。
- ・年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を80%以上にする。

学校の年度目標

- 確かな学力を育むために指導と評価を一体化させ、生徒の学習状況に応じて評価を指導にフィードバックさせることで、校内調査において「授業が分かりやすい」の項目に肯定的に答える生徒の割合を7割以上にする。
- 校長戦略予算を活用した全生徒対象の英検・漢検・数検を実施し、多くの生徒に達成感を味わわせる。
- 日本語指導の必要な生徒の指導体制を充実させ、日本語能力アップを図り、全体的な学力の底上げにつなげる。
- 運動を苦手とする生徒に基礎体力をつけさせ、全国体力・運動能力調査において、大阪市平均との差を昨年度調査より縮める。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】

進捗状況

特別課題検討委員会(学力向上委員会)において、教務部と連携し、研究授業や相互授業参観、課題に応じた学力向上の取り組みの考察などを推進する。

(4-1 言語活動・理数教育の充実)

指標

特別課題検討委員会(学力向上委員会)を月に1回以上開催する。

取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】

校長経営戦略支援予算を利用し、英検、漢検、数検の3検定を校内で実施する。教科指導を向上させ、個に応じた指導を充実させる。

(4-3 英語教育の充実)

指標

校内アンケート調査で「授業が分かりやすい」の項目に対して、肯定的に回答する生徒の割合を昨年度以上にする。

取組内容③【基本的な方向 2、豊かな心の育成】

日本語指導の充実に向けて、教育環境を整える。

(2-5 多文化共生教育の充実)

指標

日本語指導の必要な生徒に対し、能力に応じた日本語能力検定試験を実施する。

取組内容③【基本的な方向 5、健やかな体の育成】

| | |
|---|--|
| <p>バランスよく基礎体力と運動能力を高めるためのトレーニングを継続して行う。また体力・運動能力調査を全学年で実施し、全体的な底上げを図っていく。</p> <p>(5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)</p> <p>指標</p> <p>体力・運動能力調査で、全国平均、大阪市平均を上回る種目数を昨年度より増やし、体力合計点で全国平均、大阪市平均との差を縮める。</p> | |
|---|--|

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

年度目標

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

| 全市共通目標（中学校） | 達成状況 |
|---|------|
| <ul style="list-style-type: none">デジタル教材を活用した授業を週3回以上実施する。学習者用端末を毎日活用する。ゆとりの日の設定を月に1回設ける。年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。 | |
| 学校の年度目標 | |
| <ul style="list-style-type: none">デジタル教材を活用した授業の校内外の研修に積極的に参加する。学習者用端末を活用する授業等を前年度より増加させる。教員の時間外勤務時間を前年度より減少させる。年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を前年度より増加させる。 | |

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

| 取組内容①【基本的な方向6、教育DXの推進】 | 進捗状況 |
|--|------|
| 教員のICT活用を指導する能力向上を推進する。 (6-1 ICTを活用した教育の推進) | |
| 指標 ICT関連の校内研修会を年3回実施する。 | |

取組内容②【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

| | |
|--|--|
| サポーターの人材を充実させ、業務依頼書を活用し、教職員の時間のゆとりを確保する。 (7-1 働き方改革の推進) 指標 校内アンケート調査で「ゆとりをもって業務ができた」において、肯定的に回答する教職員の割合を80%以上にする。 | |
|--|--|

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点